

支援活動だより

「震災がなければ・・・」

支援活動担当（宮古地域） 香木みき子

震災がなければ・・・

何十年も住み慣れた自分の家で、これからも普通に近所の人たちと笑いあいながら、過ごしていくはずだったろう。

少しでも震災前の暮らしに近づきたい、そう願ってそれぞれ皆さんが一生懸命にがんばっています。その中で、「安心して暮らせる家がほしい」と思うのは、ごく自然で、当然のことです。

しかし住宅建設には、震災前より多額の費用がかかります。そのため、住宅再建をあきらめて、故郷から離れていく家族もいます。慣れない土地で寂しい思いをしている人たちもたくさんいます。

ここに住む人がこれ以上少なくなってしまうたら、「地域の活性化」はほど遠くなります。自然豊かな海、山、川を誰が守るのでしょうか。

被災されたみなさんは、もう充分我慢しています。きびしい仮設住宅での暮らしに我慢、自宅再建のためにささやかな願いを我慢、我慢・・・

他人事に思わないでください。もし自分の立場だったらと想像してみてください。次に起こりうるかもしれない災害のため、実情に合わせた支援で少しでも安心して暮らせるために、「被災者生活再建支援制度」の拡充を求める署名を広げましょう。

支援活動

年末の炊き出しを今年も行います

「仮設住宅でおくる年末年始、心も体も少しでも温かく過ごしてほしい」という思いから、2011年にスタートした年末の炊き出し活動。今年も陸前高田・大船渡・大槌の仮設住宅で開催します。この活動には、おおさかパルコープ、ならコープ、よどがわ市民生協からも組合員ボランティアが参加します。



昨年のクリスマス炊き出しの様子。「みんなであったかい食事を食べるのっていいね」

★3行レシピ⑥に向けてレシピを募集します★

「食べることを大切にしてほしい」との思いから発行している3行レシピは、こ〜ぶ委員のみなさんからお寄せいただいたレシピでスタート。現在⑤まで発行しています。

2月発行予定の第6弾に向けて、あったかメニューの3行レシピを募集します。様式は自由です。

メモ用紙やメール、FAXなどで1月中旬までに組活チームへお寄せください。



日程	行き先	内容
12月24日(水)	陸前高田	クリスマス炊き出し
12月29日(月)	大船渡	年末炊き出し
12月30日(火)	大槌	年末炊き出し

Kのつぶやき 「おそろべし、人感センサー」

某市の市民課の依頼で、いわて生協の環境活動について話すことになった。「これは半端な気持ちではいけない。いわて生協の威信にかけてしっかり準備をしよう！」と、いわて生協の環境活動の情報収集に取り組んだ。太陽光発電、リサイクル、マイバッグ、コープの森、エコエコ探検隊、エコ棺、風力発電、地産地消…出てくる出てくる、いわて生協の環境活動！こんなにあるんだ〜！知ってはいたけれども、いざ書き出してみるとずいぶ

ん多い！

そういえば、この春できたばかりの盛岡南センターのトイレは人感センサーで、人が入れば明るくなり、いなくなれば消えるという節電型だ。先日、そのトイレでじっと座っていたら、真っ暗になった。窓のないトイレなので本当に真っ暗だ。びっくりして「うわっ！」と動いたらパッと明るくなった。トイレでじっとしてはいけない。(K)

